



# 2018年1月期第2四半期決算説明資料

2017年9月8日

<b>1</b>	<b>事業概要</b>	<b>03</b>
<b>2</b>	<b>決算概要</b>	<b>09</b>
<b>3</b>	<b>業績予想</b>	<b>14</b>
<b>4</b>	<b>成長シナリオ</b>	<b>16</b>

# 1 事業概要

会社名	株式会社トランザス
本社	神奈川県横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号 横浜ランドマークタワー17F
設立	1995年1月26日
決算期	1月
代表者名	藤吉 英彦
事業内容	ターミナルソリューション事業 ① IoTソリューションサービス 自社開発ハードウェアとシステムの提供 ② IT業務支援サービス 業務システム及び関連機器の開発・導入・保守
従業員数	44名（2017年8月末現在）
グループ会社	TRANZAS Asia Pacific Pte . Ltd.(シンガポール販売子会社)

インターネットと人を繋ぐ最後の終端となる端末（ターミナル）の開発製造とそれらを活用したシステム等をB to B市場に提供しております。

コンシューマ市場ではスマートフォン・PC・サーバがターミナルに該当



当社はBtoB市場に特化して提供

設計

開発

委託製造



販売支援分野



映像配信分野



作業支援分野

PC等に置換わる単機能に特化したターミナルをBtoB市場に提供

IoTソリューションサービス



ターミナルを活用する企業のニーズに応じたシステム構築・保守を実施

IT業務支援サービス

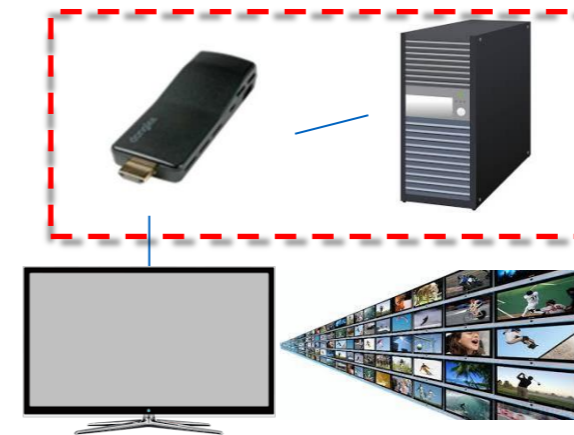


多様な業種を営むVARが当社ターミナルに独自の価値を付与して、それぞれの市場で販売を行っております。

カメラ映像のレコーディングターミナルとして



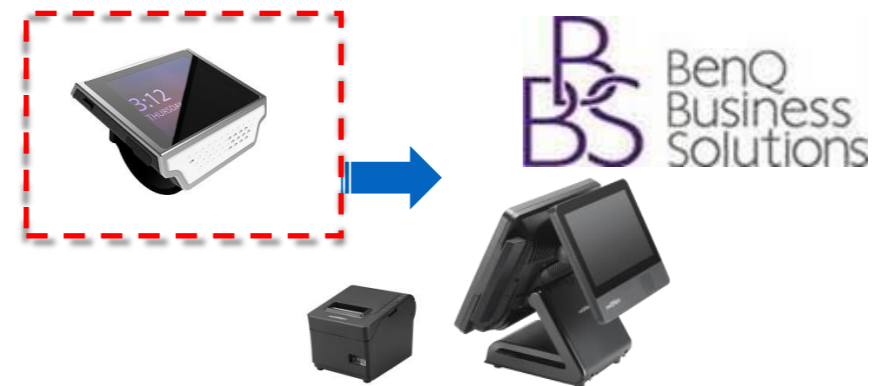
VOD端末として



教育用・会議用ターミナルとして



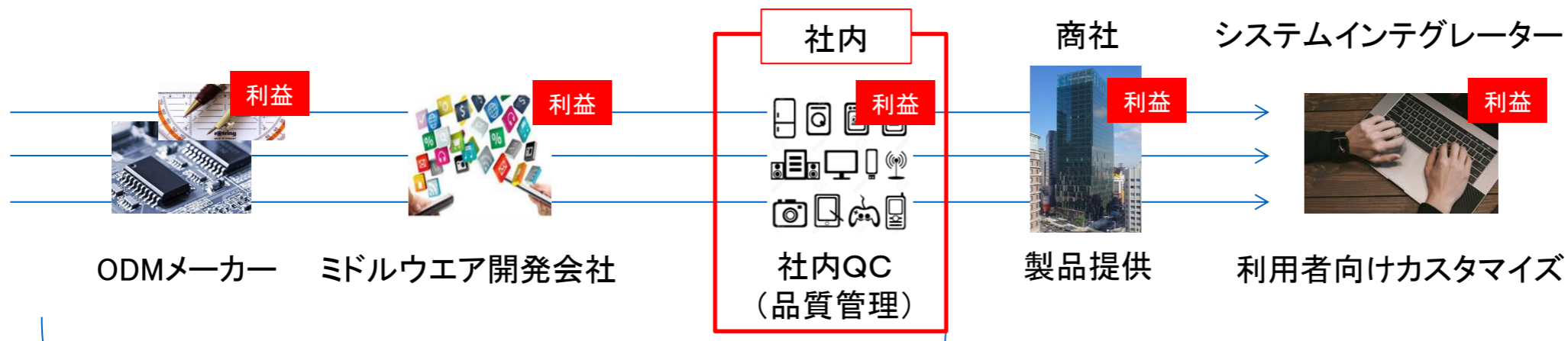
POSシステムのオーダー端末として



様々なマーケットに、大手VARが当社ターミナルを横展開しております。  
その販売チャネルは、徐々に拡大しております。

当社では製品の開発から販売まで一気通貫で行っており、  
垂直統合型のビジネスモデルを構築しております。

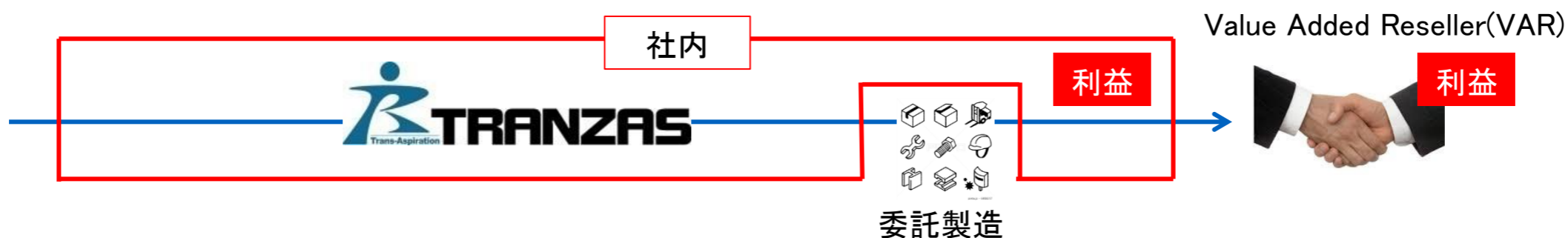
小ロット生産の場合の一般的な開発・流通体制



通常メーカーは水平分業するため、上図のような流通となります。

当社における開発・販売体制

製造は委託しておりますが、複数の企業で一般的には協業するプロジェクトも、海外の製造メーカーを取り纏め1社での提供を行っております。



サプライチェーンにおける利益分散を徹底的に抑え、垂直統合型の体制を整えたことが、  
価格競争力に繋がり、独自の強み・市場を形成することを可能としております。

プロジェクト毎の製品開発においてもスケールメリットを出すために、  
知的財産の蓄積機構を構築しております。

コモディティ製品・  
プロジェクト製品設計



製品の販売台数が少ないと、ソフトウェア償却が高額になるため、大量生産もしくはコモディティとしての生産以外では利益が出ず、小ロット生産では赤字に至ることもあります。

当社製品設計



複数プロジェクトに横展開できる構成をとっているため、小ロット生産であっても高利益を確保します。一度の開発が横への広い展開につながるため、VARがそれを他マーケットへ広げ、マーケットがさらに拡大していきます。



## 2 決算概要

売上、利益ともに前年同期及び第2四半期の業績予想を上回って着地をいたしました。

金額単位: 百万円	2017/1期 2Q累計実績	2018/1期 2Q累計実績	前年差	2018/1期 2Q累計計画	計画差
売上高	512	593	+81	557	+36
売上原価	291	331	+39	298	+33
売上総利益 (粗利率(%))	220 (43.0)	262 (44.2)	+41 (+1.1)	259 (46.5)	+3 (△2.3)
販管費	142	140	△2	141	△1
営業利益 (営業利益率(%))	78 (15.2)	122 (20.6)	+43 (+5.36)	118 (21.2)	+4 (△0.6)
経常利益	85	118	+33	101	(※)+17
四半期純利益	56	80	+23	70	+10

(※) 上場関連費用の計上時期のズレにより業績予想発表数値と差が生じました。

IT業務支援サービスは、前年度から受託開発が減少し、前年同期比で売上が減少しましたが、IoTソリューションサービスは、新規VARと既存VARの拡販により売上が増加しております。

金額単位: 百万円	2017/1期 2Q累計実績	2018/1期 2Q累計実績	前年差	2018/1期 2Q累計計画	計画差
売上高	512	593	+81	557	+36
IoTソリューション	334	452	+118	434	+18
映像配信分野	290	427	+137	415	+13
販売支援分野	44	23	△21	19	+4
作業支援分野	—	1	+1	—	+1
IT業務支援	177	140	△36	122	+18

- ・業績予想と比較して、IT業務支援サービスの構成比率が上昇しております。
- ・ウェアラブルデバイスを実証実験用に国内外で販売したため、作業支援分野で売上が1百万円発生いたしました。

販管費は前年度と同水準となりましたが、開発売上の減少に伴い製造原価が減額し、製品販売が増えたことによる製品売上原価が増加しました。

金額単位： 百万円	2017/1期 2Q累計実績	2018/1期 2Q累計実績	前年差	2018/1期 2Q累計計画	計画差
売上原価	291	331	+39	298	+33
製品売上原価	114	185	+71	164	+21
製造原価(※)	177	145	△31	134	+10
販管費	142	140	△2	141	△1

(※) 製造原価には、主に労務費、経費、ソフトウェア開発に伴う他勘定振替高が含まれております。


・製品売上原価率は、過年度に納品した製品の保守交換やIT業務支援サービスでの機器販売も増加したため、前年同期比及び業績予想比で製品売上原価率よりも上昇しております。

主に四半期純利益の計上及び新株予約権の行使により、純資産が前事業年度末から169百万円増加したことにより、総資産が893百万円となりました。

金額単位: 百万円	2017/1期 期末実績	2018/1期 7月末実績	増減額
流動資産	621	805	+183
現金及び預金	316	386	+69
売掛金	203	285	+81
その他	100	133	+32
固定資産	81	88	+6
資産合計	702	893	+190
流動負債	163	184	+20
純資産	538	708	+169
資本金	110	143	+33
その他	428	565	+136

(※) 当連結会計年度より、連結財務諸表を作成しております。





# 3 業績予想

2018年1月期通期予想は、平成29年8月9日付「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表した通り売上高1,252百万円、経常利益243百万円を予想。

金額単位: 百万円	2017/1期 通期実績	2018/1期 通期予想	前年比(%)	2018/1期 2Q累計実績	進捗率(%)
売上高	1,051	1,252	+19.1	593	47.4
営業利益 (営業利益率(%))	177 (16.9)	256 (20.5)	+43.8 (+3.6)	122 (20.6)	47.6
経常利益	184	243	+31.7	118	48.9
当期純利益 (四半期純利益)	111	166	+48.6	80	48.6

(※) 当連結会計年度より、連結財務諸表を作成しております。

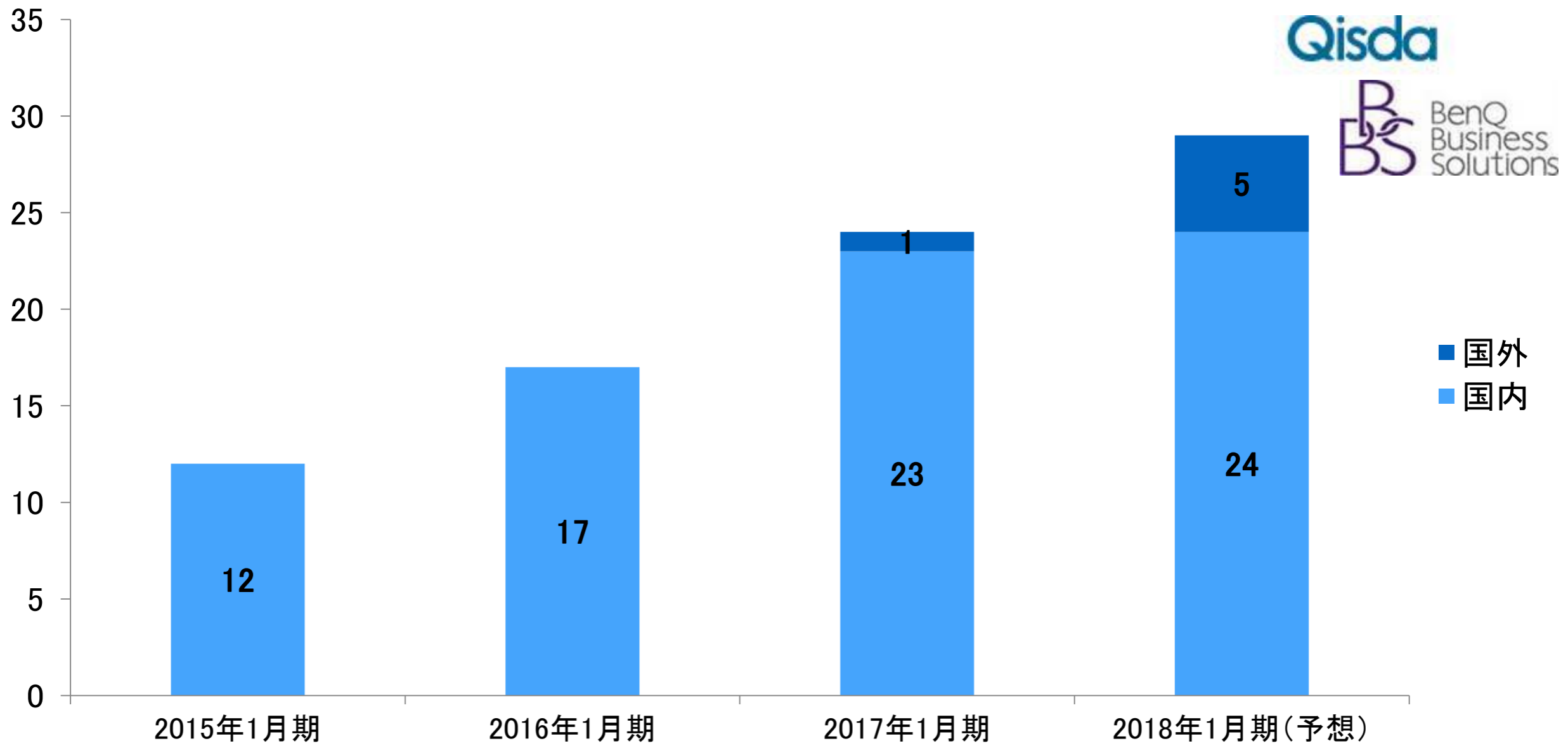
- ・売上高は、IoTソリューションサービス1,006百万円(前期比35.9%増)、IT業務支援サービス245百万円(前期比20.7%減)を予想しております。
- ・当社の売上、利益は、第2四半期と第4四半期に増加する傾向にあり、また、四半期別では第4四半期が最も増加する傾向にあります。

# 4 成長シナリオ

当社のVAR数は増加してきており、今後も自社開発ターミナルの展示会等への出展を通じて協業できるVARを発掘し、海外を中心に増やしていく計画です。

単位：社数

当期新たに加わった海外VAR:  
世界的電子機器大手メーカー





VARにより様々な分野にウェアラブルデバイス「Cygnus」の用途が広がっております。  
VARとの協業を核として早期に事業として確立させてまいります。



**飲食店での利用：運営コストの低減**

オーダーリング端末として  
POSや厨房の表示端末と連携

Multi ordering device & Satisfaction survey

Customers

Kitchen Display Sys.  
POS  
POS printer

Web APP Database Web service Cygnus

ウェアラブルデバイス利用による、  
容易なカスタマイズ性

- POS システム
- デジタルメニューボード
- 発注システム
- オペレータ操作 UI
- キッチンディスプレイ
- デジタルサイネージシステム

Qisda社とは、2017年9月8日付で、Cygnusの国際展開の相互協力に関する合意を致しました。

**工場での利用：膨大なデータ処理の効率化**

カメラやスキャナ（オプション）を利用する事で、  
2D/3D バーコードの情報をスピーディに取得

Wi-Fi と Bluetooth の組み合わせにより様々なデバイスの利用、  
または様々なロケーションでの利用が可能

マイク及びスピーカを搭載しており、  
ボイスコマンドによるハンズフリー操作が可能

Wifi Bluetooth

顧客用途に応じてアプリケーションのカスタマイズが可能

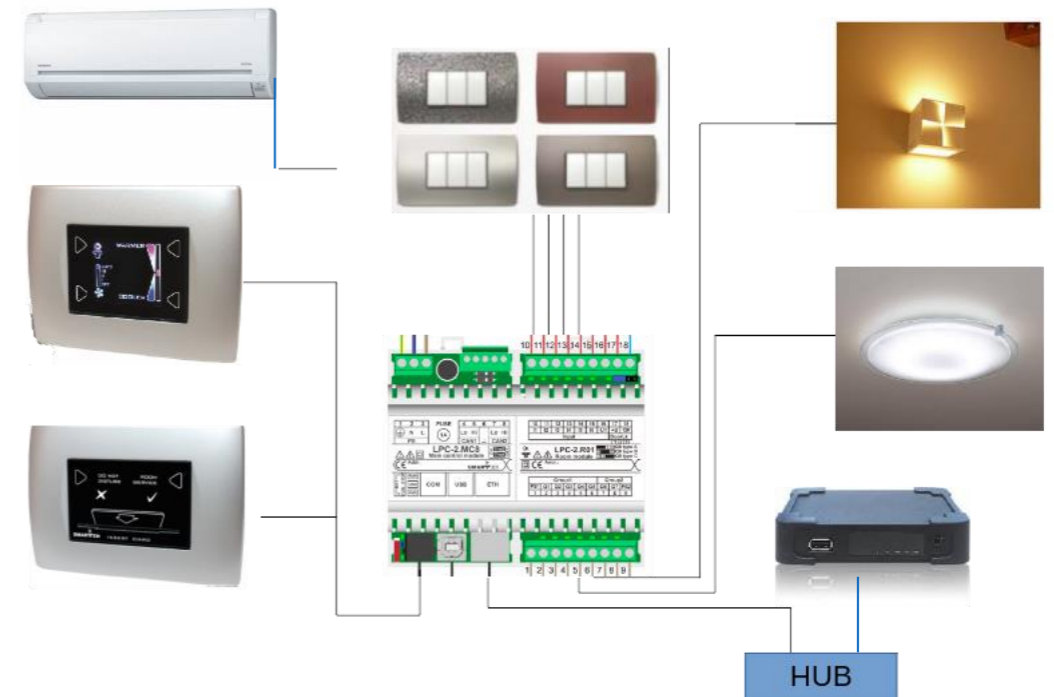
海外の工場において実証実験を行っております。生産現場への早期導入を目指し、改善活動をしております。



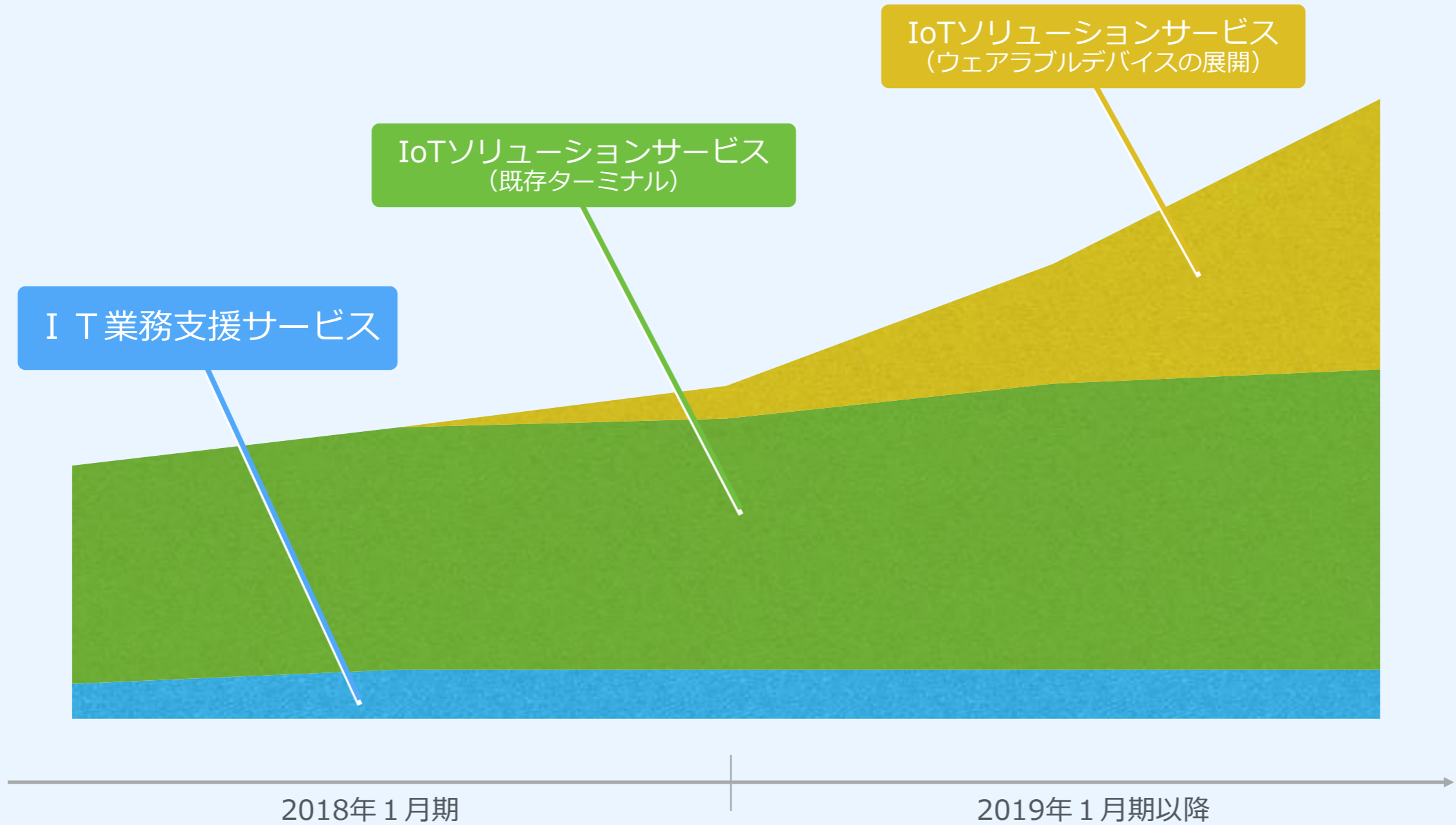
単機能型コンピュータとしてのSTB（セットトップボックス）の利用が広がっております。  
新たにルームコントロールを提供してまいります。

2017年9月6日、家電の遠隔制御を可能とするルームコントロールの提供を開始いたしました。

当社のSTBにて、室内の照明、エアコン、カーテン等、様々な機器の遠隔制御が可能になります。



安定したIT業務支援サービスを基盤に、市場が拡大しつつあるIoTソリューションサービスの事業拡大を目指します。



- 本資料には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標等が記載されております。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本資料の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されております。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しております。
- なお、本資料のいかなる部分も一切の権利は当社に属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。